

## 相模原市保育連絡協議会保育研修会

日 時 平成 25 年 11 月 19 日(火) 18:30～20:00  
場 所 あじさい会館ホール  
テーマ 「保育園の子ども達を災害から守るには」  
講 師 危機管理教育研究所 危機管理アドバイザー 国崎 信江 氏

東北の震災後はそれぞれの園で災害対策の見直しを行い対応力強化を図ってきたと思います。今回、国崎先生のお話を聞き 1 時間半の短い講演でしたが中身は濃く、大災害が起きたときに私たちの行っている「皆が安全であることを前提とした」避難訓練では想定しているハードルが低く、いかに課題が多いかということを感じかせていただきました。大規模な災害では死者が出たり、負傷者が必ず出るという想定でシュミレーションを行わなければ何もできないという言葉が胸に刺さり、現在の準備では不足していることが非常に多いと痛感しました。今回の研修に参加された各園の職員が内容を持ち帰り、自分の園で行われている防災訓練や防災対策をさらに見直しして、大災害が起きたときでも対応できる準備を整えていくことが必要だと思いました。

### (研修の中でのポイント)

- ・震度 6～7 の地震では人が死んだり負傷することを想定しなければならない。誰もが安全に避難できる前提の訓練では意味がない。
- ・シュミレーションする際は、まず何人の職員が活着ているかを検証してから始める。自分の体重の 4 倍の重さのものに潰されると 10 分で死亡。ガラスの破片や物が当たって死亡などもある。(耐震性・安全な環境づくりが大切)
- ・防災頭巾は役に立たない。ヘルメット(落下物)・防煙マスク(火災など)の方が役に立つ。
- ・家具等を固定すれば命を守れるということではなく、あくまで逃げる時間を稼ぐためのものにとらえる。
- ・大きな地震では揺れが起きてから数秒で物が倒れたり飛んでくるので、揺れ始めてからできることは少ない。
- ・死ぬよりもケガで済めばよいという咄嗟の判断をすることも大事。
- ・薄くなりがちな調理室(調理員)の防災対策もしっかりとしておく。
- ・けが人が出たときに素早く応急処置ができる保証はない。いざというときの為に訓練やシュミレーション(手順確認)が必要。各保育室やクラスごとに救急用品を用意しておく。止血には止血パッドが良い。状態によっては応急処置が遅いと死亡することもある。
- ・季節や事象によっても避難の仕方が変わってくる。夏場に何の対策もなく外に避難待機させたらどうなる？
- ・子ども達が普段から安全な場所や危険な場所をわかるように目印をつけておくことも大切。
- ・大地震では床に物が散乱しているので、掃除用品も災害時の備品として大事。
- ・普段から、子ども達には「自分の命は自分で守る」という意識を育てる。また、緊急時は自分の物ではなくても使ってどうにかしなければならないことを教えていく